

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 清瀬 中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	全国学力調査の結果では知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が東京都を4.4ポイント下回った。語彙力に課題が見られ、言葉の特徴や意味、表現技法の効果を踏まえて適切に活用する力も不足していると考えられる。また、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題では東京都を13.4ポイントも下回ったことから、特に「話す・聞く」分野においての表現する力が課題であると考えられる。	語彙力を高めるための取り組みを授業内で行う。同じ内容の文章でも使われる言葉の違いによってどのような差が生じるかを考えさせ、語感を磨く。また、自分の考えを他者に口頭で伝える取り組みを増やし、聴き手を意識しながら表現を工夫して話す機会を定期的に設ける。	
社会	・地理分野の学習を終え、地図や気温図、産業の特徴をまとめた表などから国を特定する等、資料を組み合わせた問題を意識して定期考査にも取り入れるようにしてきた。業者テストの結果を見ても、一定程度の成果はあったと思われる。基本的な語句を確実に覚えるということも、1、2年生のときに比べて意識が高まっている生徒が多い。一方で、基礎的な事項の定着が不十分な生徒も依然として見られる。	・重要語句を確認する小テストを定期的に行う。 ・歴史分野で単元ごとにまとめを記述式で書かせるなど、学習事項を理解し自分の言葉で表現する力を伸ばせるようにする。 ・公民分野では身近な題材を多く取り入れるとともに、話し合い活動を行い、主体的・対話的な学びにつなげる。	
数学	・学力調査の結果から、全体としては全国平均を上回ることが出来たが、関数及び思考・判断・表現の項目が下回っている。特に関数に関しては2.5%下回っている。2年生の時点でも関数に課題があったため、一番の課題である。 ・記述式の問題においても他の項目と比べ、正答率が低いことが見受けられる。	・関数においては、本時の内容のみでなく、すでに行っている毎回の確認テストに合わせて出題・解説を行って行く。 ・記述式の問題においては、解答例を多く示し、自分の理解しやすいものを見つけて取り組んでいけるようにしていく。また、演習時間が多くなりがちになるので、取り組みやすい問題を確認テストに合わせて出題していく。	
理科	・「知識・技能」に関しては、全国・東京都の平均を下回っている。家庭学習での知識の定着がなされていないこと、各分野で興味がある。なしによって、単純に忘れていたことが考えられる。また、「思考・判断・表現」が東京都・全国を上回っていることに関しては、普段の生徒の様子を見る限り、意外な結果である。問題が「選択式」であり、校内の定期テストでの記述問題とは違っているので、単純に比較はできないが、消去法から正解にたどりついていることが考えられる。記述問題で自分の考えを論理的に説明することは難しい。今回の問題が日常生活に比較的即した、興味を持つものであり、興味を持ちながら解くことが出来たのではないかと思う。 ・課題は1～2年時の復習、単元の終わりや領域ごとに小テストをする、基礎の積み重ねが必要である。	・話し合い活動などの取り組みを多く入れることにより、自分考えや人の考えに触れることができ、じぶんの考えの再構築をしていくなど、より知識、思考を深めていく必要がある。 ・日常的に1年～2年の復習を取り入れていくことで、実験などの技能の習得だけでなく、知識・理解の振り返りができ、復習による基礎・基本の定着につながる。 ・3年の単元が終わった後の時間を利用して、さらに1年～3年生までの総合問題を学習し、理科の各分野の横断や他教科との総合問題に取り組む。 ・実生活に即した「理科」を常に考えさせているので、このことは続けていくとともに、教員としても現代科学を常にアンテナを伸ばしておきたい。	
音楽	・合唱活動には意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、特に男子は声を出したり、発表したりすることに抵抗感を感じている生徒も中にはみられる。 ・音程通りに旋律を歌うことが上手できない生徒が多い。 ・鑑賞の活動は興味をもって取り組める生徒が多いが、文章表現が難しい生徒もいる。 ・リコーダーの忘れ物がみられる。	・音楽祭に向けて、合唱曲をタブレットに自分の歌声を録音するなど、発声への関心を高める。 ・個別の発声や音程チェックによる指導。 ・アルトリコーダー、筆、ギターによる楽器指導。 ・タブレットのソフトを利用した創作指導。 ・鑑賞指導で各楽器の音色や奏法の特徴について、思考・判断力を高める鑑賞指導。 ・忘れ物チェック、取り組みカード記入の実施。	
美術	・真面目に活動に取り組むことができる生徒が多い。 ・定期テストでの問題の正答率が悪いことから、学習した内容の定着が不十分である。 ・発想力や構想力を広げる活動が苦手である生徒が多く見られる。 ・作品制作時の技術が身につけにくい。	・知識を定着させるために定期的クイズ形式で振り返りを行う。授業時にも学習した知識や技法を積極的に取り入れて定着させる。 ・定期的な話し合いを通して、他者の意見を取り入れる機会を設ける。話し合いからヒントを基に発想力を広げさせる。 ・動画や参考作品を通して発想力や構想力を広げる。 ・デモンストレーションや個別指導を通して技術を身につけさせる。	
保健体育	・運動に苦手意識を持っている生徒もいるが、授業に前向きに取り組もうとする生徒がほとんどである。 ・自己の体力や技能の課題を把握し、より自主的に、考え工夫して運動に取り組んでいくことが課題である。	・学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。 ・課題に対する学習をスモールステップで繰り返し行い、技能の習得に努める。 ・機会を捉え、運動の必要性や今行っている運動と体力のつながりについて話し、理解を深めさせていく。 ・グループでの活動や教え合いの場面を増やしていく。	
技術・家庭	・真面目に取り組む生徒が多いが、積極的に発言する生徒は限られている。 ・基礎的な操作は可能だが、応用や発展的な活動に対しては消極的である。 ・情報授業は得意な生徒と不得意な生徒がはっきり分かれている。不得意な生徒はタブレットの操作が苦手であるため、個別での操作の指導が必要である。	・話し合い活動などを取り入れることにより、自身の考えや他者の考えを共有でき、より智識や思考を深めることが出来るので取り入れていきたい。 ・基礎操作の説明や応用のヒントを与え、応用力身に付けさせる。 ・板書やプロジェクターでの視覚情報を分かりやすくまとめる。	
外国語(英語)	話すことに苦手意識を持っている生徒が多い。正解以外の口にはできない、はずかしい、といった意識が強い生徒が多い。聞くこと、読むことについては類推して概要をとらえることができる生徒が多い。パターンを外れた部分でもその力を発揮して表現に繋げていくことができると良いと思われる。	復習的な内容を使い、会話練習の機会を設定することで、英語を話すことへの抵抗感や苦手意識を下げるのと同時に、共同して復習に取り組むことで、学び合いを促進しながら基礎的な力を定着させる。引き続き発表の機会を持たせ、表現力の向上を図る。	
道徳	道徳の授業に対しては、真面目に一生懸命取り組もうとする生徒が多い。一方で、課題について自分の考えをもつことはできるものの、それを他者に積極的に伝えようとする生徒はごく僅かである。少数での意見交換の場を設けるとその活動に取り組むことはできるが、クラス全体の場で発言する生徒は少なく、全体としての意見共有が難しいことが課題であると考えられる。	IOTを活用し、発表が苦手な生徒でも全体での意見共有がしやすくなるように工夫する。また、課題に対してだけではなく、他者の意見に対しても自分の考えや疑問がもてるように発問や活動を工夫し、意見交流の活性化を目指す。	
総合的な学習の時間	「総合」の取り組みでの「修学旅行」(地域学習)、「高校の先生の話聞く会」(進路学習)、「キャリアパスポート」を中心とした自己分析(人権)の活動を通し、課題設定の能力、問題解決の能力、学び方・もの考え方について、着実に力をつけることが出来た。今後は進路に向けて自己の生き方を中心に将来に向けて考えられるようにする。	進路活動を通し、積極的に自己分析ができるようにする。また、修学旅行の調べ学習、話し合い活動によって得られる様々なことから、主体的・創造的な態度を育成する。また、行事なども制限されていく中で、日常生活から得られる小さいことも積み重ねていく必要がある。	